

## 震災遺構中浜小学校 防災学習「考えるワークブック」の使い方について

### 1 基本的な考え方

- このワークブックは、東日本大震災で被災した中浜小学校で起きた出来事を起点としながら、防災に役立つ多方面の視点をワークとして示しています。一般的な防災問題集のような「空欄一正答型」のワークブックではなく、**災害時に役立つ知恵や感覚、情報の取り方、居場所の伝え方など「生きる力を育む」ものとして作成しています。**
- 原則として、左が情報ページ、右がワークページとなっており、Vol.1(小学生向け)、Vol.2(中学生向け)、それぞれ7つのワークを用意しています。見学前、現地見学時、見学後に使用できるような順序としています。
- 震災遺構中浜小学校の展示は、「答えを示すのではなく問いを投げかける」ことを基本姿勢としています。災害は全てが個別で多様であり、その備えに統一された唯一の正解はないためです。このことに伴い、**ワークブックにも明確な回答を用意していないことをご承知おきください。**
- 目的や指導内容に応じて適切なワークを選択してご使用いただきます。児童・生徒の自主学習や、家庭内で保護者とともに行う学習に活用することもよいと考えています。

### 2 小学生向け(Vol.1)各ワークのねらい

各ワークは、文部科学省の「学校防災のための参考資料」に留意して作成しています。

参考: 文部科学省『学校防災のための参考資料「生きる力」を育む防災教育の展開』平成25年3月

ワーク番号(Vol.1/小学生向け)	1	2	3	4	5	6	7
<b>知識、思考・判断</b>							
地震で起こりやすい災害や地域における過去の災害について理解し、安全な行動を取るための判断に生かすことができる。	○		○	○	○		○
被害を軽減したり、災害後に役立つものについて理解する。		○				○	
<b>危険予測・主体的な行動</b>							
災害時における危険を認識し日常的な訓練等を生かして、自らの安全を確保することができる。		○			○	○	
<b>社会貢献、支援者の基盤</b>							
自他の生命を尊重し、災害時及び発生後に、他の人や集団、地域の安全に役立つことができる。				○		○	

#### ワーク1：津波ってどんなもの？

- **ねらい**：津波の特性を理解し、他者に伝える方法を工夫する。
- **内容**：見たことのない津波を自分の日常に引きつけて想像してみることがワークの目的です。右ページの例では、以下のような津波の特徴を表現しています。
  - ガラクタ風呂：津波はただの水ではなく、様々なガレキを含んでいること
  - 浸水下敷き、ツナミの地上絵：津波の高さや深さ

#### ワーク2：やってみよう！身体(からだ)ものさし

- **ねらい**：危機予知・思考、判断のための基礎的技能を養う。

- **内容**：自分の身体のサイズを知ることで、身の回りのものと自分の関係や、身体でできることの限界を知ることがワークの目的です。

左ページの写真は以下の場所で撮影されました。

左上：校舎東側(海側)の擁壁 / 右上：校舎内の階段

左下：中庭の防鳥ネット / 右下：校舎西側(山側)階段の壁

#### ワーク3：どこにある？津波の“あと”

- **ねらい**：津波の威力・危険性・被害などについて理解する。
- **内容**：本ワークでは、津波破壊の痕跡を詳しく観察することで、津波の破壊が一様でないことを発見することに主眼を置いています。津波が流れた方向、勢いの強弱、減衰させた要因、ガレキが衝突した形跡など、多くのことが想像できます。見学時間の不足が想定される場合は、写真を撮影し、見学後の復習時間に書き込んでもよいと考えています。展示室に改修する際、復旧した窓ガラスもありますが、それも「こわれているまど」として印を付けてかまいません。

#### ワーク4：結成！「やまもと調査団」

- **ねらい**：被災した生活空間が被災・復旧・復興を経ることで、短期・中期・長期的な視点でどのように土地の利用方法に変化があるのかを知る。
- **内容**：図書室に展示されている震災前の町の模型と、その窓から見える現在の風景を見比べることで、震災前後の町のちがいをより理解しやすくなります。山元町の観光・震災関連施設については、震災遺構管理棟壁面のマップにも紹介されています。

#### ワーク5：どんなふうにしたのかな？

- **ねらい**：災害時に生き抜く工夫や知恵を事前に考え、対処するための想像力を養う。
- **内容**：中浜小学校での出来事を追体験することではなく、非常時を想像してそれぞれの場所にあるもので工夫して考える力を養うことがワークの目的です。身の回りにあるものの、本来の使い方以外に考えられる用途を工夫してもらうものです。

#### ワーク6：どうやって伝えよう！？

- **ねらい**：救助を要請する際の基礎的な手法について知る。
- **内容**：自分を見つけてもらうための方法を実際に体験しながら、助かり方を学ぶことで、緊急時にも冷静に対応できるようになることが本ワークの目的です。音、光、色調など、その場の環境に応じて考えていただきたいと思います。

#### ワーク7：作ろう！災害ヒストリー

- **ねらい**：身近な時間軸と過去の災害を重ね合わせながら把握するとともに、大規模な災害が周期的に起きていること、伝承の重要性と難しさについて知る。学校ではなく自宅などで行うことに主眼を置いており、年長者から当時の話を聞くきっかけを与え、興味をもってもらうことも、ねらいのひとつです。
- **内容**：欄内に記載された線を参考にして、児童自身や家族等の歴史を書き込み、各々の人生においてどのような災害が起こったかを俯瞰するワークです。また、主な災害や社会の動き欄に、居住地域や身の回りで発生した事象を記入することで、より自身の経験と重ねて学習することが

できます。内容的には小学生の領域を超えていると思われるので、保護者等と取り組んでいた  
 だくこととしています。

### 3 中学生向け (Vol. 2) の各ワークのねらい

小学生向けと同様、文部科学省の学校防災のための参考資料に留意して作成しています。

ワーク番号 (Vol. 2/中学生向け)	1	2	3	4	5	6	7
<b>知識、思考・判断</b>							
災害発生のメカニズムの基礎や諸地域の災害例から危険を理解するとともに、備えの必要性や情報の活用について考え、安全な行動を取るための判断に生かすことができる。	○		○	○	○	○	○
<b>危険予測・主体的な行動</b>							
日常生活において知識をもとに正しく判断し、主体的に安全な行動を取ることができる。		○				○	○
被害の軽減、災害後の生活を考え備えることができる。			○				
災害時には危険を予測し、率先して避難行動を取ることができる。				○			○
<b>社会貢献、支援者の基盤</b>							
地域の防災や災害時の助け合いの重要性を理解し、主体的に活動に参加する。		○			○	○	○

#### ワーク 1：地震はどこで起きる？

- **ねらい**：日本は地震が多く発生する地域だと知り、防災意識を高める。
- **内容**：左ページに記載された地震発生情報には、2011年3月11日前後で発生した地震のうち、被害の規模ではなく、地震そのものの規模を示すマグニチュードの値が大きいものを挙げています。日本は多くのプレートに囲まれており、その境界や境界付近で地震が多く発生している災害大国であるという視点を得ます。

#### ワーク 2：世界を身体で測定しよう

- **ねらい**：危機予知・思考、判断のための基礎的技能を養う。
- **内容**：自分の身体のサイズを知ることで、身体の延長としての世界と自分の関係や、人間の知覚と距離からできることを知ることがワークの目的です。

#### ワーク 3：体内時計は合っている？

- **ねらい**：避難行動などに必要な時間の見積りと、実際のズレを体感する。
- **内容**：行動にかかる予想時間と実際の時間を確認することで、時間見積りの精度を高めたり、感覚を養うことを目的としています。見積った時間の違いによっては、避難場所が変わる可能性が大きいことや、見積った時間が過大でも過小でも危険が増すことを理解します。

#### ワーク 4：津波の痕からわかること

- **ねらい**：津波の威力・危険性・被害について理解する。

- **内容**：本ワークでは、津波により倒れた方向や移動した方向など破壊の痕跡を観察することで、津波の動きが一樣ではないことなどを発見することを目的としています。  
見学時間の不足が想定される場合は、写真を撮影し、見学後の復習時間に書き込み作業を行ってもよいと考えています。

#### ワーク 5：How to Explain

- **ねらい**：震災の被害や教訓を、日本語話者以外にも伝える方法を考え、実践する。
- **内容**：海外で日本を紹介するとき、災害大国であることは関心と呼ぶ話題のひとつです。災害の経験について、生徒同士で文章を読み合ったり、周りの英語話者に伝えるなどの実践的なワークを行っても良いでしょう。有事の際、外国人に避難を促す手段としても有効です。

#### ワーク 6：それ本当？

- **ねらい**：各自が携帯を用いて様々なメディアから情報を得られる現代ですが、目にする情報の正確性を判断するため、信頼性のより高い一次情報にアクセスする癖をつける。
- **内容**：メディアリテラシーの重要性を認識し、デマや噂に惑わされないよう、自分で正しい情報を得ることの重要性を理解します。各投稿の正しい情報の記載元は、気象庁HP、政府地震調査研究推進本部HPです。

#### ワーク 7：どちらを選ぶ？

- **ねらい**：災害対応時には、簡単に判断のできない選択に迫られる可能性があることを知る。また、どちらかの選択だけが正しいのではなく、その時の情報や背景などによって判断が変わる可能性があることを知る。
- **内容**：本ワークは、できればグループで話し合いながら取り組んでいただくこととしています。ヒントに記載されているキーワードも、居住地域の環境や状況に応じて変更してください。

### 4 裏表紙の使い方

- 自由記載欄としてご利用いただけます。  
以下の宛先にコピー（70%に縮小していただくと助かります）をお送りいただいた場合、館内にて掲示やファイリングを行い、来館者に自由閲覧をさせていただきます。

お送り先：〒989-2292 宮城県亶理郡山元町浅生原字作田山32  
 山元町教育委員会 生涯学習課宛 TEL 0223-36-8948

- 自由記載欄の活用方法(案)
  - ・見学前の未来予想感想文「見学したらどんな気持ちになると思う？」、見学後の見学体験感想文「見学してどんな気持ちになった？」など、2段に分けて記載してもよいと思います。
  - ・感想文だけでは、児童生徒の大半が同じような内容になる場合が懸念されますので、防災の標語づくり、感想を5・7・5で表現してみる、など趣向を変えてみるのもよいと思います。

### 5 注意事項

このワークブックの著作は全て山元町教育委員会に帰属します。許可なく複製して使用することや、ウェブ上に掲載することなどはご遠慮いただきますよう、お願い申し上げます。

